

全国協議会 ニュース

2025年11月1日発行 第399号

発行所：特定非営利活動法人
全国骨髄バンク推進連絡協議会
〒101-0031 東京都千代田区東神田 1-3-4KT ビル 3 階
TEL：03-5823-6360 FAX：03-5823-6365
発行責任者：梅田正造 題字：仲田順和
https://www.marrow.or.jp E-Mail:office@marrow.or.jp

厚労省移植医療対策推進室を訪問 令和8年度予算概算要求の内容を聞く

9月18日(木)、全国協議会の梅田理事長、若木副理事長、鈴木理事が、令和8年度移植医療対策推進の概算要求の説明を受けるために厚生労働省移植医療対策推進室を訪問しました。移植医療対策推進室では、細川室長補佐、高波造血幹細胞移植係長、栗和田係員が対応してくださいました。

※以下、()内の数字はそれぞれ令和7年度の当初予算額

全体概要

移植医療対策の推進のための概算要求額は総額49億円(37億円)、そのうち造血幹細胞移植対策推進は31億円(25億円)で、前年度に対して6億円の増(1.24倍)となり、この5年間で一番大きくなりました。

これは、骨髄バンクにおけるスワブ検査とオンライン登録の導入、その他人件費や臍帯血移植対策の増などが要因となり大きく増えたことによるものです。

下の図に令和4年度～8年度の移植医療対策費の概算要求額内訳を示しました。

事業の概要(抜粋)と概算要求額

①骨髄移植対策事業費(骨髄バンク運

営費) 7.1億円(5.0億円)

新たな骨髄バンクドナーの登録方法であるオンライン登録の導入に伴う環境を整備する費用です。スワブ検体採取によるオンライン登録に要する費用分が増額となっています。

②骨髄データバンク登録費 5.8億円(6.5億円)

骨髄移植及び末梢血幹細胞移植をする際に必要な骨髄等ドナーのHLAの検査及びデータ登録・管理体制の確保を図るための費用です。従来方法からスワブに置き換わる分の減額が見込まれています。

③臍帯血移植対策事業費(臍帯血バンク運営費) 8.4億円(6.5億円)

臍帯血バンクの安定的な運営を支援するための費用です。問診票のオンライン化に要する費用分が増額となっています。

④造血幹細胞移植患者・ドナー情報登録支援事業 2.8億円(50百万円)

患者の治療内容、ドナーの健康情報等を収集・分析するシステムの改修分の費用が増額となっています。

⑤造血幹細胞提供支援機関事業 2.2億円(2.0億円)

骨髄バンク、臍帯血バンクに対する支援機関(日本赤十字社)の安定的な運営を支援する費用です。

⑥造血幹細胞移植医療体制整備事業 4.0億円(3.9億円)

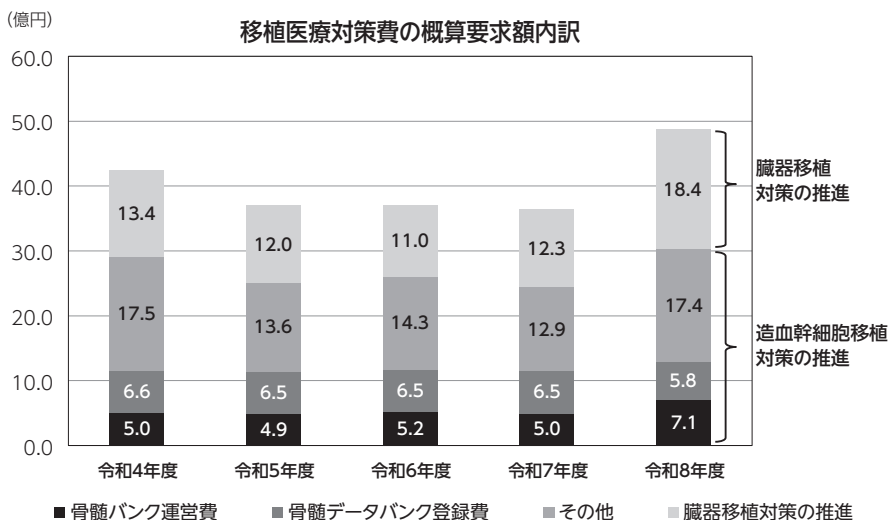
各地域の造血幹細胞移植推進拠点病院の体制整備を図るための費用です。

移植医療対策推進室から ボランティアへメッセージ

秋口にスワブのトライアル3が始まる予定ですが、移植医療対策推進室からはボランティアの皆さんに対して、次のようなメッセージがありました。

「スワブが導入されても、すべてがスワブによる登録に切り替わるものではない。献血併行型登録会は継続する。ボランティアの皆さまには来年以降も継続してご助力をお願いしたい」

(全国協議会 理事長 梅田正造)



骨髄バンクの最新情報をお知らせする

骨髄バンク NOW

《MONTHLY JMDP(10月15日発行)より抜粋》

■日本骨髄バンクの現状(2025年9月末現在)

		8月	9月	現在数	累計数
ドナー登録者数		2,312	2,187	564,558	1,011,100
患者登録者数		202	200	1,759	72,174
採取数	骨髄	53	52	—	27,375
	末梢血幹細胞	35	34	—	2,650
	合計	88	86	—	30,025

2023年4月から統計基準が移植件数から採取件数に変更

■9月の区分別ドナー登録者数

献血ルーム／492人、献血併行型集団登録会／1,664人、集団登録会／0人、その他／31人

■9月の年齢別ドナー登録者数(現在数)

10代 4,890人／20代 99,592人／30代 137,654人
40代 207,884人／50代 114,538人

■9月の20歳未満の登録者 221人

注)数値は速報値のため訂正する場合があります。

東京レガシーハーフマラソン 2025 チャリティ



10月19日(日)、国立競技場で開催された東京レガシーハーフマラソン2025に寄付先団体として参加しました。全国協議会は、フルマラソンの東京マラソンには2020年から参加していますが、東京レガシーハーフマラソンに参加するのは今回が初めてです。

東京マラソンチャリティと同様に、血液疾患の患者さんを応援するため全国協議会の活動に賛同いただいた方々が全国協議会のチャリティランナーとなってくださいました。

天気模様が心配されましたが、当日



は晴れ間も見られる天気となり走り終わったランナーさんからは「暑かった」という声も聞こえてきました。

スタートは国立競技場。約15,000名が次々にスタートする姿は壮観の一言です。東京2020パラリンピック競技大会のマラソンコースを活用した日本橋を折り返し地点としたコースで東京都内を駆け巡ります。

全国協議会は国立競技場内のチャリティラウンジでチャリティランナーの皆さまがフィニッシュ後に立ち寄っていただくブースを設置しました。一人

また一人とメダルを首にしたランナーが現れると「お疲れさまでした!」の掛け声と大きな拍手で寄付先団体のみんなで迎えました。はにかんだ笑顔の方、大きく手を振り拍手にこたえる方などさまざまでしたが、皆さんが満ち足りた表情でした。

お疲れの中、チャリティランナーの方々がチャリティブースに立ち寄ってくださいました。「年齢的にドナー登録はできませんが、患者さんを応援したくて応募しました」「身内を白血病で亡くしているので」など、患者さんを思って支援くださいました。2泊3日で東北地方から参加した方もおられ、秋の東京のど真ん中を楽しんで走られました。また、「骨髄バンクの啓発に参加したいので来年は是非チャリティランナーになりたい」とお立ち寄りくださった方もいらっしゃいました。

ご参加いただいた皆さまありがとうございました。

グリーンリボンランニングフェスティバル2025に参加



10月13日(月祝)に駒沢オリンピック公園総合運動場(東京都世田谷区)でグリーンリボンランニングフェスティバル2025(NPO日本移植者協議会等主催)が開催されました。移植医療への理解を深めるためのイベントです。天気予報では雨。開催が心配されましたが、午後には晴れ間も見えるランニング日和となりました。「骨髄バンクにご協力ください」のタスキをかけて臓器提供者への感謝の気持ちを込めて風船を飛ばすバルーンセレモニーにも参加しました。ランナーはハーフマラソンと42.195kmリレーに参加した総勢10人。沿道では14人がランナーを応援しまし

た。ブースでは骨髄バンクの啓発を行いました。さい帯血を提供してくださったファミリーも立寄ってくださいました。ハーフマラソンに参加

した方からの感想を紹介します。

駒沢オリンピック公園にて2025年10月13日開催のグリーンリボンランニングフェスティバル2025に参加しました。全国骨髄バンク推進連絡協議会のホームページにてタスキをかける走者を募集しているところに応募し、僥倖ながらハーフマラソンの区分で走らせていただきました。

私は骨髄バンクを通して過去に2度、ドナーの経験があります。2回目の入院時に病院の方にさまざまなお話を聞く機会があり、多くの患者さんと接して燃え尽き症候群になりそうな状

態で頑張ってもらってる姿を見て、私にも何かできることは無いかと考え始めました。

ネットで調べると「骨髄バンクランナーズ」という方々がいらっしゃるのを知りました。地元のマラソン大会で自作の拙いタスキをかけて真似事などしていたのですが、今年、公式にマラソン大会でタスキをかけて走る人を募集していたので応募してみました。

フェスティバル当日は協議会の方々に沢山応援してもらい、力をもらえました。また、走り終わった後はまだ42.195kmのリレーに参加しているBMT(神奈川骨髄移植を考える会)のチームが走っていたので私も混じって応援しました。私はそれまで移植を受けた患者さんと直接お話ししたことは無かったので、応援に加わった際にお話が出来たことはとても貴重な体験になりました。

これからも骨髄バンクについて、より多くの人に興味関心を持っていただけるよう、微力ながらご協力できればと考えております。

(若杉 渉)

息子の病気と骨髄提供

息子の発病

私が骨髄提供を考えることになったのは、息子の病気がきっかけでした。

2013年夏。息子が2歳3カ月の時、高熱で小児科を受診し、血液検査をしました。血小板が異常値だったため、大学病院に緊急入院しました。

「若天性骨髄単球性白血病」と診断され、「100万人に一人しかならない病気で、骨髄移植しか治療法がない。移植をしても半分の人が再発する非常に治りにくい病気です」と先生から伝えられました。

わが子を失ってしまうかもしれない恐怖が襲い掛かり、非常に不安だったのを覚えています。その後、骨髄移植に向けて、私たち夫婦も HLA 型検査を受けましたが、型が一致せず、骨髄バンクを介して、提供していただくことになりました。

提供を待っている方が大勢いる中、適合者が見つからないかもしれないという不安もあり、ドナー様が見つかった時の喜びは、言葉では言い表せないほどでした。

夫婦でドナー登録

現在、中学2年生になった息子は、元気に勉学に励んでいます。

骨髄を提供してくださったドナー様をはじめ、お医者様や看護師さん等々、たくさんの方に支えられ、今の幸せな生活があります。

その中で、私たち家族が、同じように重い病気で苦しんでいる方々のため

にできることはないかと考えるようになり、助けていただいた恩を返そうという思いもあり、ドナー登録を考えました。

私たち夫婦がドナー登録したのは、息子が退院して1年ほどたってからでした。退院後すぐという思いもあったのですが、息子の通院の頻度も多く、娘も生まれたばかりだったので、きちんと提供できる環境になってからの判断でした。

提供

私に1回目の通知が届いたのは2016年の3月頃でしたが、除雪で腰に痛みがあるとお話したら、提供できないとの判断に至りました。

2回目の通知があったのは2018年10月頃で、この時は確認検査まで行いましたが、提供には至りませんでした。

3回目の通知が来たのは、2021年の秋頃で、この後確認検査、最終同意となって、提供に至りました。

勤務先が休暇制度導入

提供することとなると仕事も数日休まなければならないので、会社に相談したところ快く承認していただき、有給休暇を取得させていただきました。

その後、知人からドナー休暇制度というものがあるということを聞き、会社に相談したところ、導入に向けて環境を整えるというお話になり、2022年12月にドナー休暇制度を導入していただきました。

最近では、自治体による骨髄ドナー助成制度も整備されてきており、提供しやすい環境にもなってきましたが、これから先、多くのドナーの方が年齢上限に達し減少が懸念されております。各企業、自治体が協力していただき、このような活動が広まって、少しでも多くの命が助かることを祈っております。

私も、息子と私たち家族を救ってくれた方々へ感謝を忘れず、微力でも協力していきたいと思っています。

(千歳市 椎名 心)



無菌室にて



移植後5年5カ月(妹と)

造血細胞移植患者手帳をご存知ですか？



がわかる優れたものです。救急で他院に搬送された場合も転勤や転居で主治医が変わった場合も自分の情報がすぐに

日本造血・免疫細胞療学会が発行している【患者手帳】があります。これは、患者さんがどのような移植を受けたのか

わかるので、次の治療の参考になります。お薬手帳と一緒に必携かと移植患者である私はそう思っています。

しかし、最近になり、この手帳の存在すらご存知ない患者さんが多くいらっしゃるということがわかりました（アプリに情報を入れて、患者さんと情報共有されているというところもあります。このアプリも興味がありますね）。

患者さん、患者さんのご家族の皆さん、まだご存知なければ、どうか、主治医の先生にお尋ねください。手帳に

は、ご自分の「今」の血液型、そして、ドナーさんの血液型を記すところもあります。私は、生まれたときはA型でしたが、ドナーがB型でしたので、交通事故などで輸血が必要になった場合、全血輸血のときはB型、でも、血小板輸血ならAB型をいただかなければなりません。このような重要な情報が記されている手帳は、命にかかわる重要なものです。どうぞ、今一度、ご確認いただけましたら、と、お知らせいたします。

(全国協議会 副会長 大谷貴子)

各地のたより

各地のたよりを
写真を添えて
お寄せください。

島根

今、注目の2つの高校 JRC 部の取組みを紹介

1校目は県立平田高校 JRC 部です。7月に13名の生徒が骨髄バンク説明員講習を受講しました。実地研修では直前まで友達と繰り返し練習し、いざ本番！緊張しながらも一所懸命伝えようとする姿がとても印象的でした。生徒たちは「積極的に登録会に参加して経験を積みたい」と意欲満々です。昨年、島根県では高校生説明員第1号が誕生しましたが、今年は一挙に10名以上増えることとなり大変嬉しい限りです。

2校目は8月に全国高校生ボランティアアワード2025において日本赤十字社 JRC 賞を受賞した県立三刀屋高校 JRC 部です。大会で生徒達はおかやま山陽高校ユネスコ部の発表に刺激を受け、骨髄バンクについて興味を



持ったとのこと。9月には当バンクと説明員として多くの学生が活躍している島根県立大学献血サークル「あかえんぴつくん」による出前講座に参加、自校開催の献血においても会場運営を行うだけでなくドナー登録の説明を聞き、生徒達は骨髄バンクについての知識理解を深めました。

このように高校生に骨髄バンクの輪が広がっています。若年層対策として今後、高校生の存在は大きな力になっていくに違いありません。若い世代と力を合わせて元気よく活動していきたいと思います。

(公益財団法人ヘルスサイエンスセンター島根
しまねまごころバンク 中尾優子)

滋賀

リレー・フォー・ライフ・ ジャパン 2025 滋賀医科大学開催



この度、10月11日(土)～12日(日)に開催いたしました「リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2025 滋賀医科大学」は、皆さまの温かいご支援とご協力のもと、無事に閉会いたしました。心より御礼申し上げます。

日本初のカレッジリレーとして2016年に始まった滋賀医科大学でのリレーも、本年度で、10年目となる節目の年でした。学生主体の運営として活動を継続し、多くの方々に支えられてこの日を迎えられましたことに、実行委員一同、深く感謝申し上げます。

イベントには、サバイバー・ケアギバー※の皆さまをはじめ、地域の方々や学生・教職員など400名を超える皆様にご参加いただきました。リレーウォークや各種ブース、パ

フォーマンスを通じて、会場では温かな交流の輪が広がりました。

学生による運営で至らぬ点もあったかと存じますが、多くのご理解とご支援によりこのイベントは成り立っております。「がん患者さんやそのご家族を支援し、地域全体でがんに向き合い、がん征圧を目指す」という理念のもと、今後も実行委員一同精一杯活動が続けてまいりますので温かく見守っていただけると幸いです。(リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2025 滋賀医科大学 実行委員長 藤原りこ)

※サバイバー：がん告知を乗り越えて、今を生きるがん患者・がん経験者のこと。
ケアギバー：サバイバーのご家族や支援者の方のこと。

おどろきのエピソード 抗ガン剤①



「30歳で白血病となり2度の移植を経験。現在は自分らしく生きること目標にお絵かきクリエイターとして活動中。」



心からのご寄付に感謝申し上げます

●9月21日～10月20日

当協議会への寄付金は税制上の優遇措置を受けられます。

●一般

菊水酒造株式会社 現金	500,000 円
オークランド観光開発株式会社	
松永尚忠 現金	20,000 円
杉村 由美 現金	20,000 円
辻内 義和 現金	10,000 円
櫻井 成行 現金	10,000 円
飛田 行康 現金	10,000 円
伊藤 静子 現金	20,000 円
匿名 現金	1,000 円
●佐藤き子造血細胞移植患者支援基金	
日根 和美 現金	5,000 円
日根 和美 現金	1,000 円

●募金箱

株式会社 クスリのアオキ	現金 1,340,949 円
株式会社 ナルックス	現金 5,367 円
株式会社 フクヤ	現金 23,209 円
株式会社 マルト商事	現金 78,405 円
イオン九州株式会社イオン都城店	現金 2,429 円
レンブラントホテル東京町田	現金 10,598 円

TRAILER BURGER 99

現金	8,584 円
長昌寺 現金	18,100 円
北越ケーズ 現金	224,470 円
グリーンリボンランニングフェスティバル	
募金箱 現金	3,080 円
●つながる募金	
現金	7,300 円
●キモチと。	
現金	15,843 円
●マンスリーサポート	
現金	47,000 円

活動資金の支援を お願いします

銀行口座 三井住友銀行 新宿通支店
普通 5666655

郵便振替口座 00150-4-15754

□座名：特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会
郵便振替口座の振込用紙を郵送いたします。当協議会までご請求ください。